

事務所協会

「気概持って仕事を」

新年の門出盛大に祝う



山田会長

群馬県建築士事務所協会(山田美光会長)は20日、前橋テルサで新年会を開いた。当日は会員ら120人が出席し、年の門出を祝うとともに1年を乗り切るための英気を養った。冒頭あいさつで、山田会長は「昨年と違い、ことは明るい兆しで年が始まった雰囲気がある。私どもの仕事も豊気良くスムーズに進めばと考えている。賛助会と事務所協会が共に仲良く手を取っていい年になるよう頑張るって参りたい。わたしたちの仕事は人の財産を扱って

る。大きな金額が動く仕事を担っていることに自覚を持ち、責任を持ってよい良い製品を社会に残す貢献していくことが重要。個々に情報を仕入れ、技術研さんを積み重ね、企業として協会としても社会に貢献する団体として発展することを期待したい。年を新たに心も改めて、気概を持って仕事をしていこう」と呼びかけた。続いて、賛助会の高洋製作所の豊田勝弘会長が「景気回復がじわじわ進行してきたのも感じられる。4月の消費税アップ後も元氣よく仕事ができるような体制づくりを政府がしてくれるよう期待している」と語る。各企



新たな年を期待した

群馬建築士会(渡辺良彦会長)は17日、前橋市内で新年会を開いた。渡辺会長はあいさつで「これまで会の改革を8年かけて進めてきた。今後も一般社団法人にあきわしい会になるよう努めてい



渡辺会長

希望の持てる会へ

建築士会が新年会開催

く。関東1都9県のなかで会費が一番安いのが群馬県。財政状況は厳しいが、みんなで協力して希望の持てる建築士会にしていこう」と呼びかけた。続いて、壇上立った栗原幸夫相談役は、自身



栗原相談役

の経験を交え組織をまとめていくことの難しさを説き、組織は融和が第一。ぜひこれからも円満にやってほしい」と会員の結束を求めた。会の中では、第4回高校生建築甲子園で見事ベスト8賞に輝いた、県

碎石組合

碎石法などテーマに

企業経営者会議開く

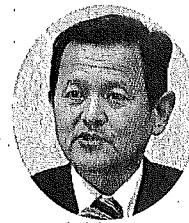


浅川理事長

群馬県砕石工業組合(浅川達郎理事長)は17日、企業経営者および業務管理者会議を前橋問屋センターで開いた。当日

は県砂防課の中村達課長も出席し、会議の開催に賛意を寄せた。会議では碎石法の運用状況や業界の状況などが説明され、参加者は現状を把握するとともに、課題解決に向けた認識を一層深めた。主催者あいさつで浅川理事長は「県の担当者

でダンパカーの確保が困難となり、われわれ業界も安定供給をなすことが難しくなっている。そのためにも碎石の適切な価格を確保して、ダンパの安定確保につなげた。健全な経営をしてよい良い職場環境をつくりていきたい。本日が皆さんにとって実り多き会議になることを祈念している」とあいさつ。



中村課長



会員同士の親交を深めた

一先生は「ありがとござい。来年はさらに上を目指します」と感謝の意を述べた。

表彰を受けた宮田諒くんは、ベスト8の成績を「優勝を目指していたのに残念な表情

石田晶さんも「本気でやっていた分だけ悔しい」と話し「来年はもっと上を目指したい」とい



建築甲子園でベスト8に輝いた前工の選手達